

神々と穂高神社の社殿

神社の入り口には巨大な木製の鳥居があります。最初に見えるのは「神楽殿」という神聖な舞のための建物です。現在では主に祭りの儀式や結婚式などの行事のために使われています。その向こうにある拝殿では、参拝者がお供え物を納め、拝礼を行います。拝殿の後ろには、三棟の本殿という神を祀る小さな聖堂があり、その中心には穂高見命が祀られています。

日本で最も神聖な神社である伊勢神宮の本殿と同様に、これらの本殿はそれぞれ 20 年おきにもとと全く同じつくりで建て直されます。建て直しの時期はずらされているため、風化した木材の表面の違いから、どの本殿が最近建て直されたか知ることができます。

建て直しを繰り返すことによって、古代の儀式や伝統的な神社に関わる建築の詳細と技術がその時々の新世代に引き継がれます。例えば、中央の本殿の屋根の両端には、千木（ちぎ）と呼ばれる交叉した部材が尾根から伸びています。この意匠の起源は数千年前にさかのぼります。千木はもともと構造を支えていたと考えられていますが、現在では純粹に装飾のためのものとなっています。このような交叉は、伊勢神宮や一部の他の神社にもみられます。

穂高神社には、かつてこの地域に住んでいた古代の氏族の伝承と非凡な歴史を示す、海をテーマにした像や彫刻などの遺物がたくさんあります。